

2026年3月期第2四半期(中間期) 決算補足説明資料

2025年11月7日

未来を包む - Inclusion for Future -



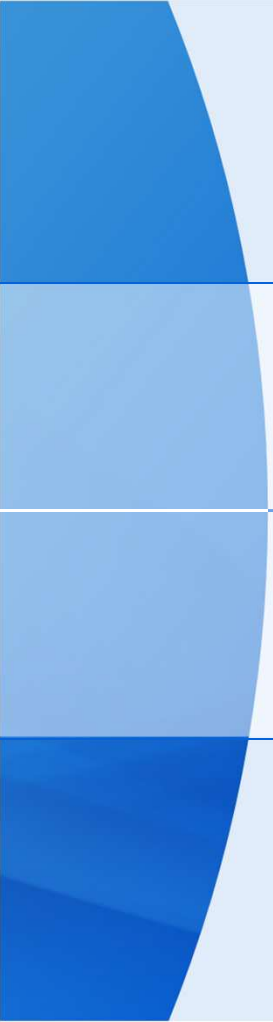
大石産業株式会社

東証スタンダード、福証: 3943

Index

目次

- 01** 会社概要
- 02** 2026年3月期 第2四半期(中間期)
決算報告
- 03** 2026年3月期 業績予想
- 04** APPENDIX



01 会社概要

包装資材の総合メーカーとして、消費者の生活や物流に欠かせない高品質な製品を提供

社名	大石産業株式会社
設立	1947年2月（創業：1925年4月）
本社所在地	福岡県北九州市八幡東区桃園2-7-1
資本金	466,400,000円
決算期	3月
従業員数（連結）	603名（連結）（2025年9月末時点）
株主数	8,717名（2025年9月末時点）
事業内容	産業用包装資材の製造販売（パルプモールド、段ボール、フィルム、重包装袋等）
連結子会社	・CORE PAX(M) SDN.BHD.（重包装袋の製造販売） ・ENCORE LAMI SDN. BHD.（ラミネート製品の製造販売） ・柳沢製袋株式会社（重包装袋の製造販売） ・株式会社アクシス （各種情報機器販売、映像・デザイン等の各種情報コンテンツの制作業等） ・FUSIONS TRADING MALAYSIA SDN.BHD. （マレーシア国における日本産農産物等の輸入販売）



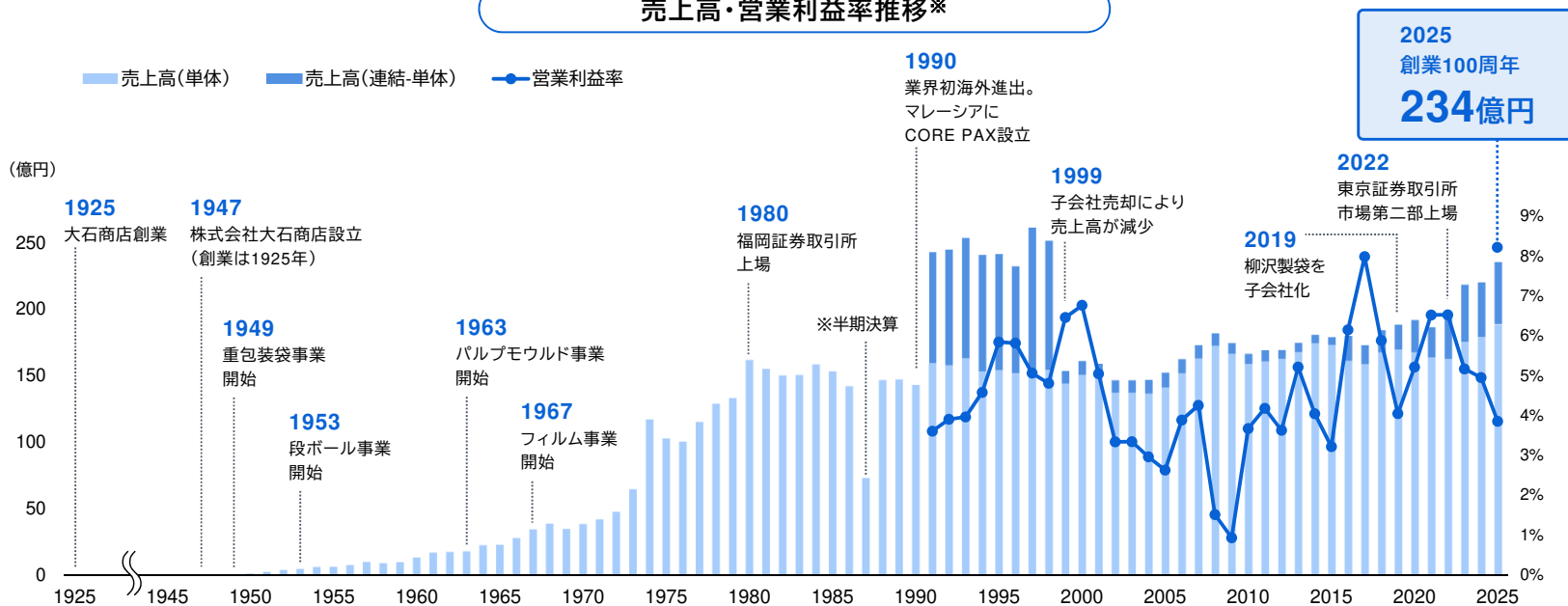
代表取締役社長 山口 博章



大石産業株式会社
公式YouTubeチャンネルにて
会社紹介動画を公開中！

1947年の設立以来、主要事業で堅調に推移。25年3月期には売上高234億円を達成。原材料・エネルギー価格変動の影響で利益増減はあるものの、赤字なしで推移

売上高・営業利益率推移※



※ 1947年～1990年は単体売上高、1991年以降は連結売上高。47～48年は12月期決算、49～86年は9月期決算、1987年以降は3月期決算の売上高。

包装資材分野に注力

日本全国に営業・生産拠点を保有し、国内のお客様のニーズに迅速に応える体制を構築。また、マレーシアにも営業・生産拠点・その他事業を展開

国内



本社



パルプモールド鞍手工場

福岡県

- ・北九州市
- ・直方市
- ・鞍手郡



- 本社
- 営業拠点
- 生産拠点
- その他

マレーシア

- 営業拠点
- 生産拠点
- その他

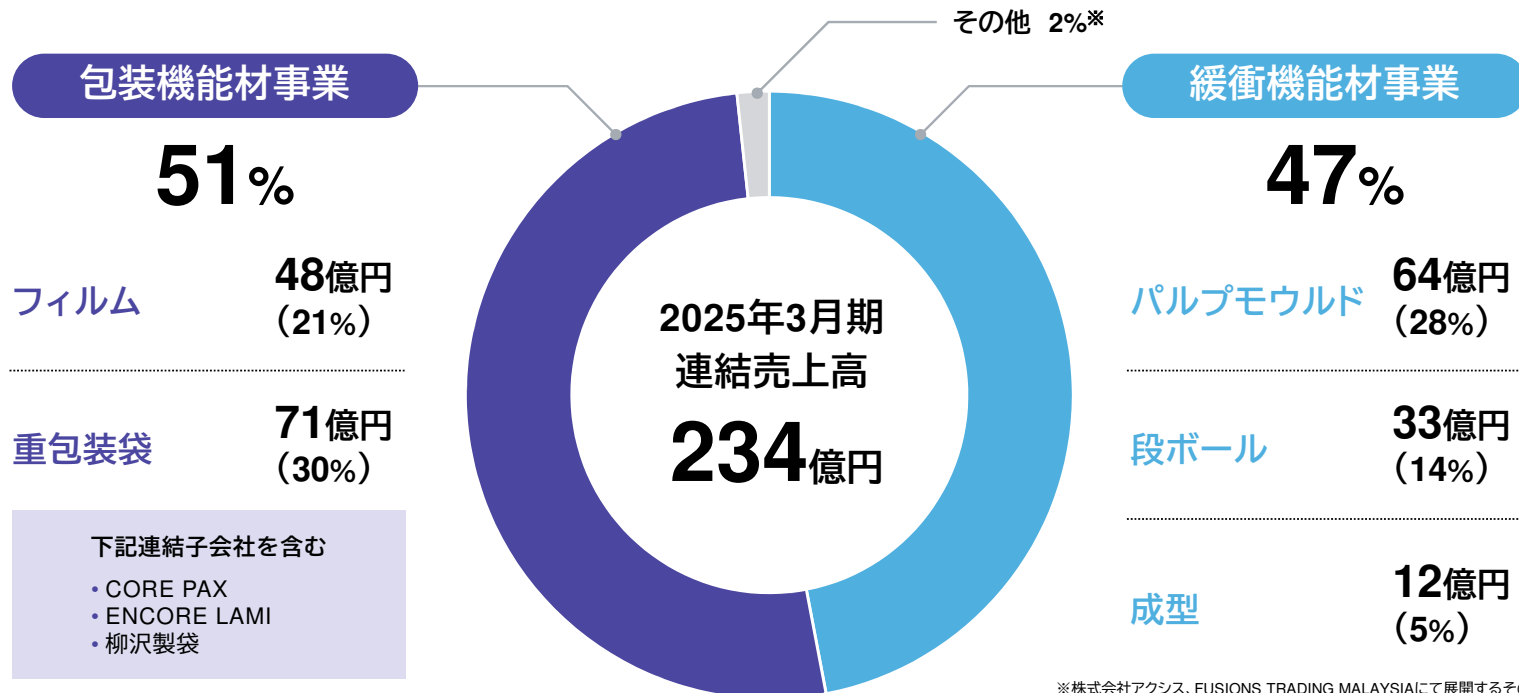
クアラルンプール

- ジョホールバル
- ・CORE PAX
- ・ENCORE LAMI



CORE PAX

パルプモールド、段ボール、成型を含む緩衝機能材、フィルム、重包装袋を含む包装機能材を基幹事業として展開



※株式会社アクシス、FUSIONS TRADING MALAYSIAにて展開するその他事業

消費者の生活に欠かせない各種製品から、物流・製造業を支える各種包装材を製造

緩衝機能材 事業

パルプモールド

鶏卵パック



ドリンクキャリア



トマトトレイ+ケース



工業品用トレイ



食品容器



鶏卵トレイ+ケース



段ボール

工業用ケース



農畜産用ケース



成型

ゆりかご



食品トレイ



包装機能材 事業

フィルム

衛生材料用フィルム



食品用フィルム



他
電子材料向け等

重包装袋

業務用小麦粉用・化学薬品用・合成樹脂用等



売上高成長率

20年3月期 ▶ 25年3月期

CAGR **+4.2%**

経常利益率

— 25年3月期 —

4.8%

海外売上高比率

— 25年3月期 —

15.4%

パルプモールド
国内シェア

— 2024年度 —

No.1



拠点数

— 25年3月期 —

営業

国内 **13** 海外 **2**

※その他事業セグメント含む

生産

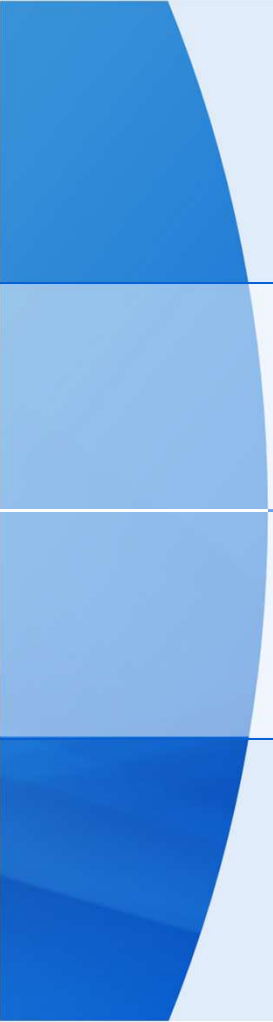
国内 **6** 海外 **2**

食品トレー用ポリスチレンフィルム
国内シェア

— 2024年度 —

**トップクラス
シェア**





02 2026年3月期 第2四半期(中間期) 決算報告

前期比で増収・増益

中間純利益は、前期に計上していた特別利益(受取損害保険金)が無いことにより、減益

売上高

11,538百万円

前期比 +0.9%

営業利益

403百万円

前期比 +4.4%

経常利益

515百万円

前期比 +9.7%

中間純利益

292百万円

前期比 △34.2%

外部環境

緩衝機能材

- ・夏季の猛暑などの天候不順により青果物の収穫量が減少、包装資材の需要にも影響
- ・環境配慮意識の高まりを背景に、紙製パッケージへの転換需要が拡大

包装機能材

- ・重包装袋は国内需要減少、ASEAN市場は成長維持も中国経済の鈍化が影響
- ・フィルム分野の食品向けは節約志向により買い上げ点数が減少し、それに伴って包装資材の需要も減少

海外重包装袋製品およびフィルム製品の販売数量減はあったものの、パルプモールド製品、国内重包装袋製品および段ボール製品の販売数量増に加え販売価格の見直し効果により、増収・増益

(百万円)

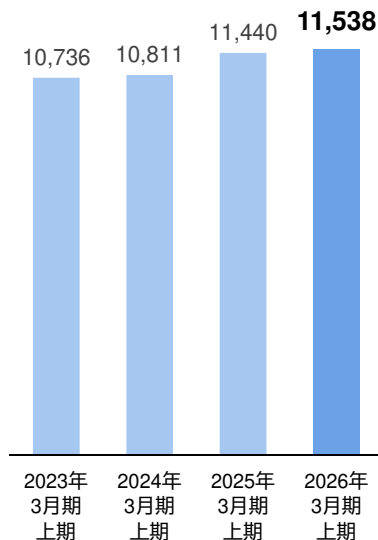
	2025年3月期 上期実績	2026年3月期上期		増減額 (増減率)
		実績	売上比	
売上高	11,440	11,538	-	+98 (+0.9%)
営業利益	386	403	3.5%	+16 (+4.4%)
経常利益	469	515	4.5%	+45 (+9.7%)
親会社株主に帰属する 中間純利益	444	292	2.5%	△152 (△34.2%)

売上高は価格修正、新規拡販の影響等により増加傾向

利益は昨今の事業運営コストの増加により減益が継続していたものの、今期はやや改善した

売上高

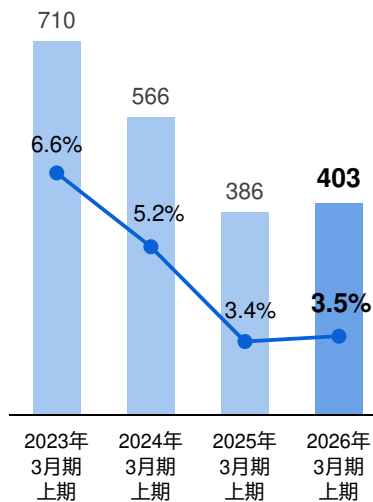
(百万円)



営業利益

(百万円)

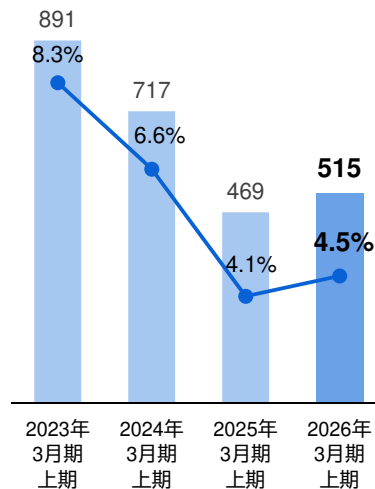
営業利益 営業利益率



経常利益

(百万円)

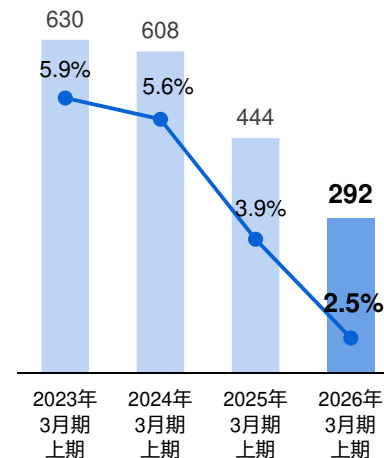
経常利益 経常利益率



中間純利益

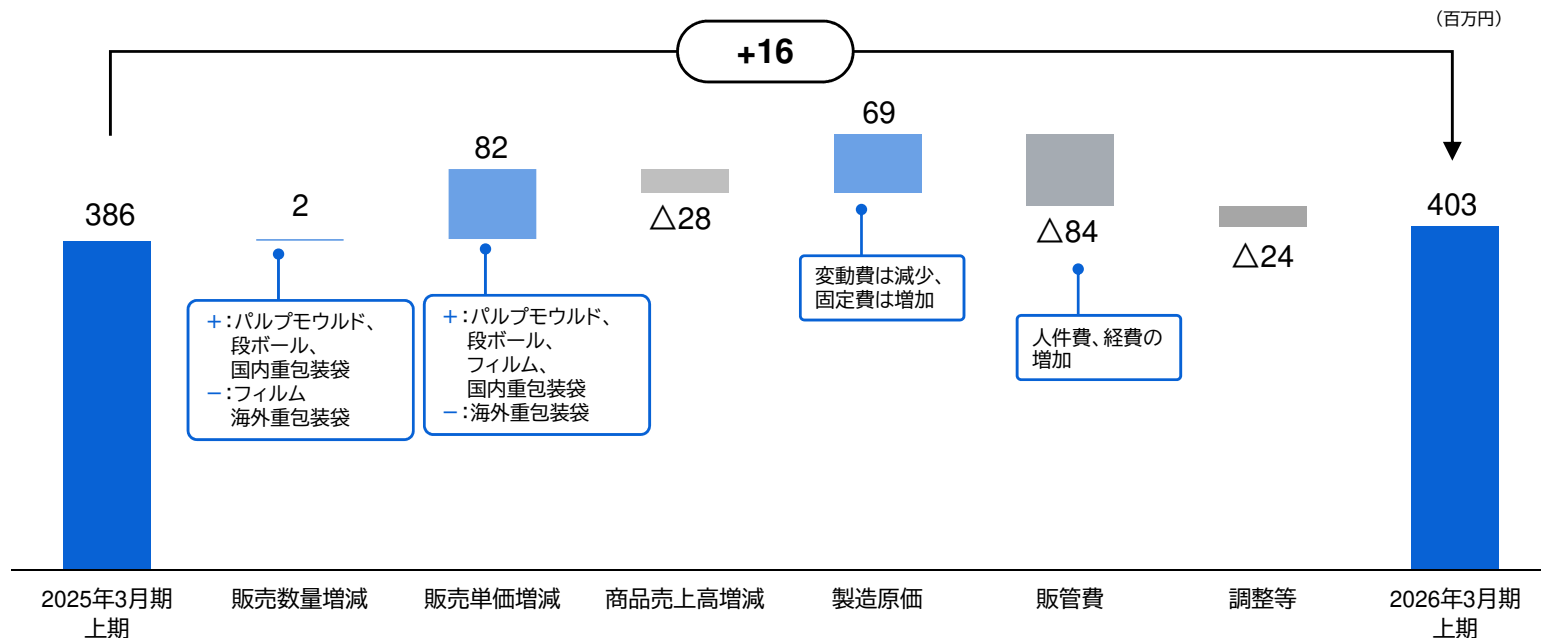
(百万円)

当期純利益 純利益率



営業利益は前年比で16百万円増加し、4億3百万円となった

固定費増加の影響はあるものの、販売単価の上昇および製造原価低減により増益

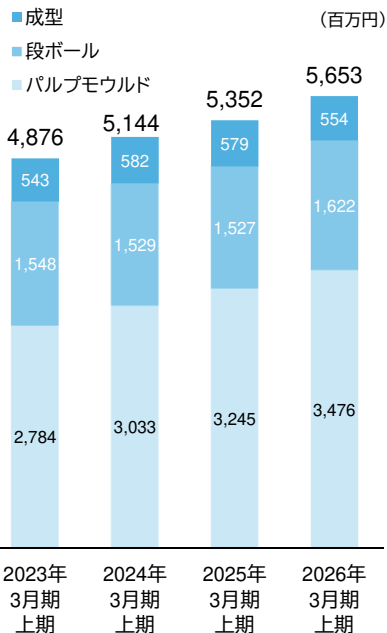


(百万円)

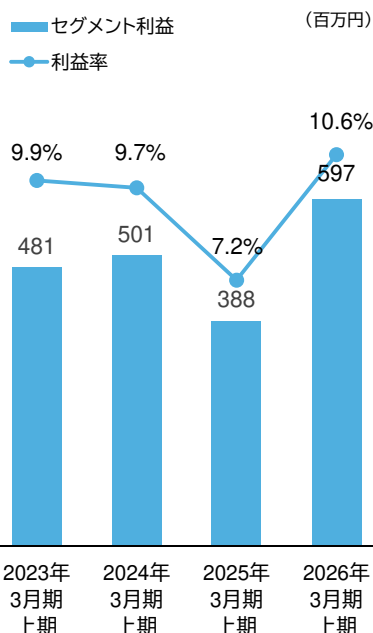
		2025年3月期 上期実績	2026年3月期 上期実績	増減額 (増減率)
緩衝機能材事業	売上高	5,352	5,653	+301 (+5.6%)
	セグメント利益	388	597	+209 (+54.0%)
	セグメント利益率	7.2%	10.6%	+3.4pt
包装機能材事業	売上高	5,906	5,643	△263 (△4.5%)
	セグメント利益	438	339	△98 (△22.6%)
	セグメント利益率	7.4%	6.0%	△1.4pt

パルプモールド部門および段ボール部門における販売数量の増加および販売価格の修正効果により、増収・増益

売上高



セグメント利益



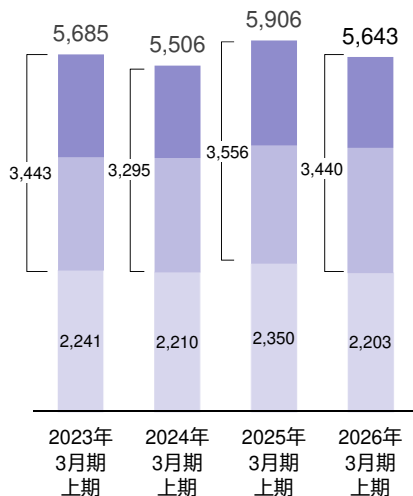
要因

- パルプモールド部門は、鶏卵用トレイの需要回復、持ち帰りドリンク用トレイが堅調に推移したこと、およびトマト、りんごを中心とした青果物トレイの販売数量増に加え、販売価格の修正により増収
- 段ボール部門は、工業分野・農業分野ともに増販となったこと、および販売価格の修正により、増収

売上高は、フィルム部門および海外重包装袋部門における販売数量減の影響が大きく、減収
利益は、フィルム部門および海外重包装袋部門の減収および減価償却費の増加により、減益

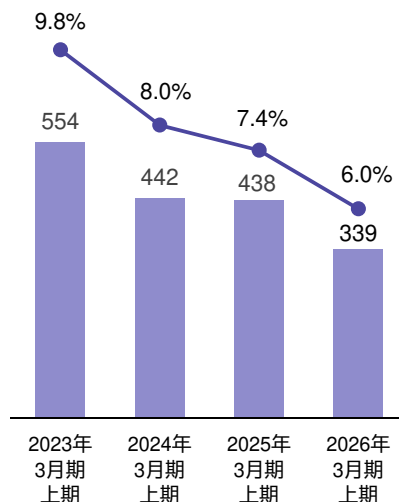
売上高

■ 重包装袋(海外) 数値は (百万円)
■ 重包装袋(国内) 重包装袋合計
■ フィルム



セグメント利益

■ セグメント利益 (百万円)
● 利益率



要因

- フィルム部門は、食品容器用ポリスチレンフィルムと自動車向けキャストフィルムの販売数量の減少および原料市況の下落に伴う販売単価の低下により、減収
- 国内重包装袋部門は、主に合成樹脂向けを中心に販売数量が伸長、販売価格の修正効果もあり増収
- 海外重包装袋部門は、食品向けは増販となったものの、合成樹脂向け、化学薬品向け等が需要減となり、減収

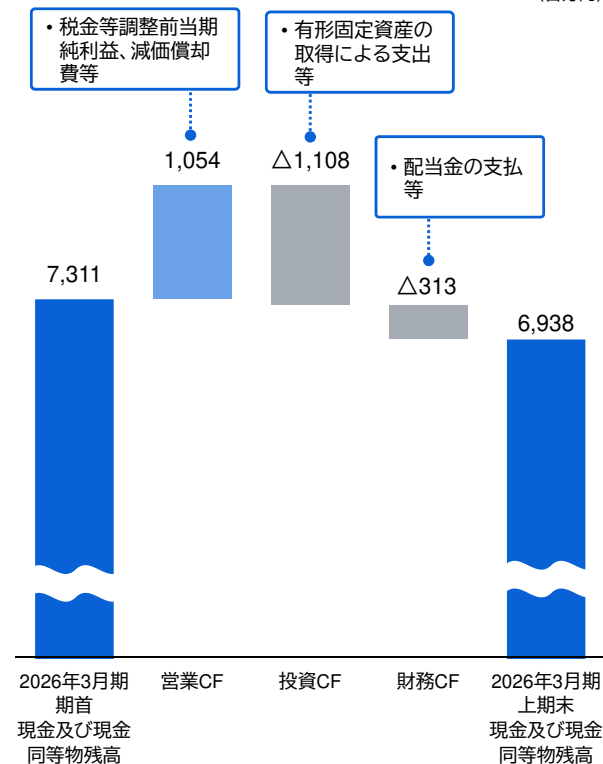
(百万円)

	2025年3月期末	2026年9月末	増減額	主な増減要因
流動資産	15,506	14,887	△619	原材料及び貯蔵品、現金及び預金の減少等
固定資産	11,185	11,767	+581	その他の有形固定資産の増加等
資産合計	26,692	26,655	△37	
流動負債	6,310	6,136	△173	支払手形及び買掛金、電子記録債務の減少等
固定負債	1,657	1,653	△4	役員株式給付引当金の減少等
負債合計	7,968	7,790	△177	
純資産合計	18,724	18,865	+140	
負債純資産合計	26,692	26,655	△37	
自己資本比率	69.9%	70.5%	+0.6pt	

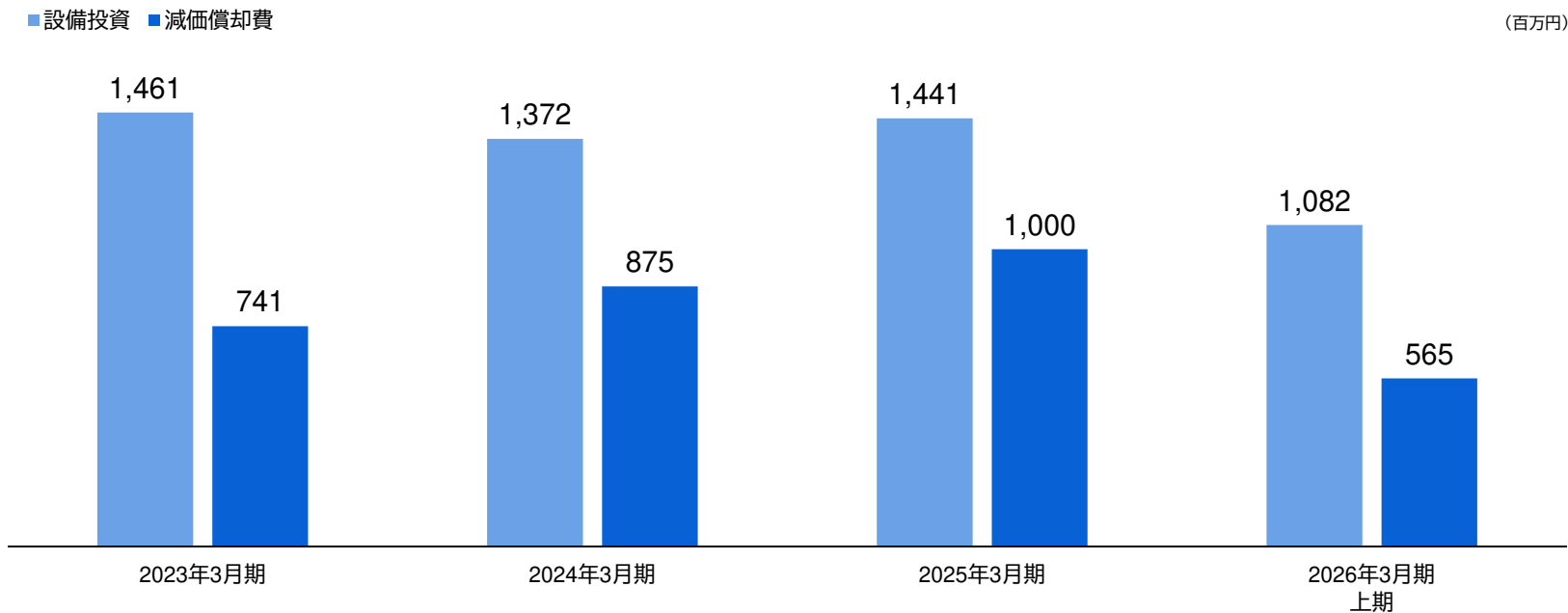
(百万円)

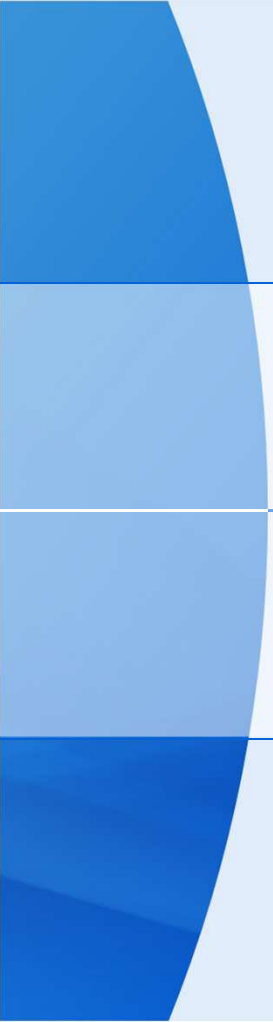
	2025年3月期 上期	2026年3月期 上期	増減額
営業CF	1,122	1,054	△67
投資CF	△775	△1,108	△332
FCF	346	△53	△400
財務CF	△286	△313	△27
現金及び現金 同等物期末残高	7,352	6,938	△413

(百万円)



中期経営計画に則り、段階的に成長投資ならびに設備更新を実施





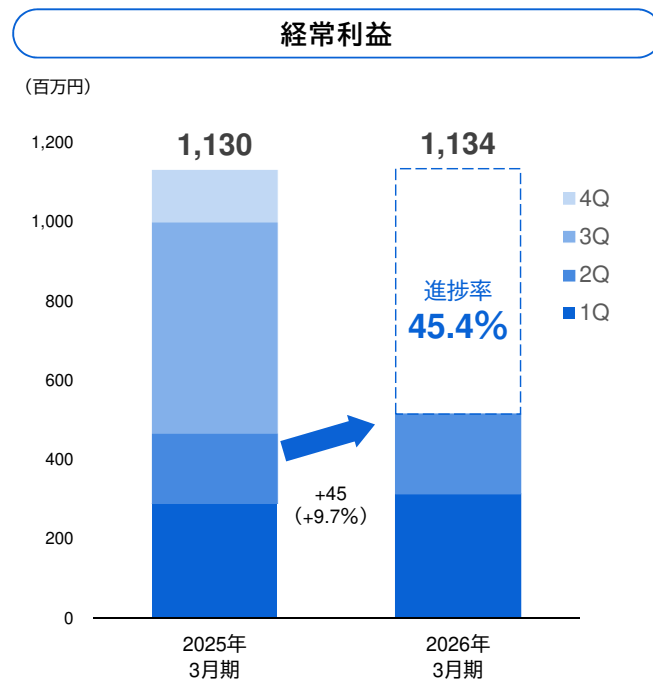
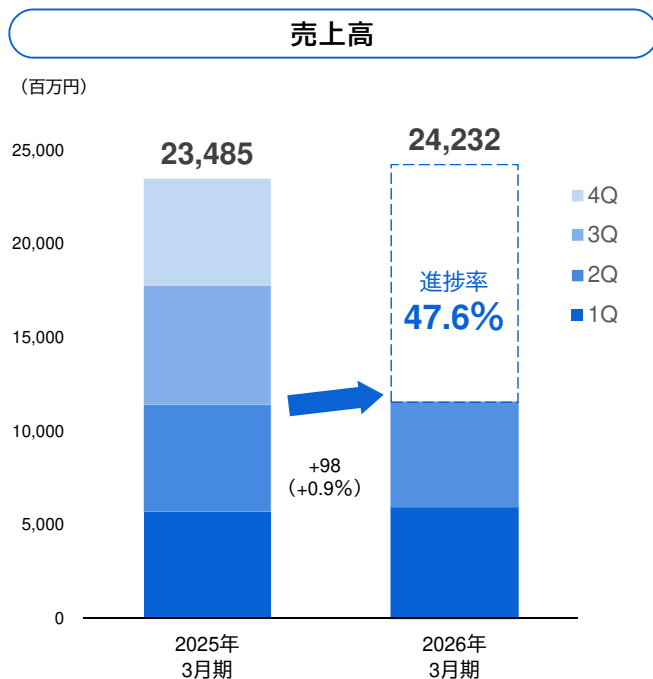
03 2026年3月期 業績予想

売上高は、海外事業における販売減はあるものの、各事業における価格修正および成長事業であるパルプモウルド・フィルム事業を中心に新製品開発を進め、増収の見込
利益は、増収効果はあるものの、将来に備えた積極的な設備投資の実施による減価償却費の増加および人員増強や人財育成、処遇改善による人的資本投資の増加により前年並みの見込

(百万円)

	2025年3月期 実績	2026年3月期		増減額 (増減率)
		予想	売上比	
売上高	23,485	24,232	-	+746 (+3.2%)
営業利益	904	901	3.7%	△3 (△0.4%)
経常利益	1,130	1,134	4.7%	+3 (+0.3%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	944	792	3.3%	△153 (△16.2%)

通期業績予想に対する進捗率は売上高で47.6%、経常利益で45.4%と当初計画通りに推移



1980年の上場以来、一度も減配・無配なし。今後も引き続き安定的な配当を実施

配当方針

生産性の向上等による利益体質強化を図りながら、将来の事業展開に備えた内部留保を確保しつつ、**DOE2.0%以上**を目安に安定的な配当を実施

株主優待

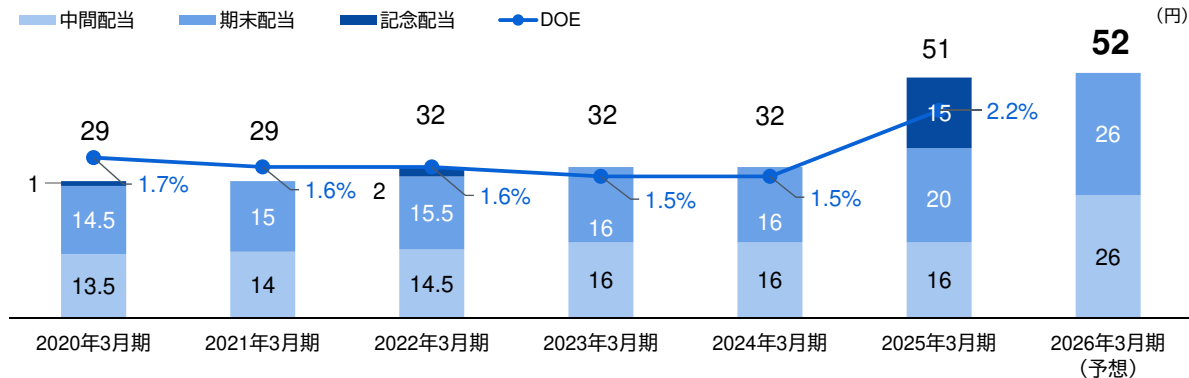
保有株式数に応じた株主優待制度・長期保有優遇制度として、QUOカードを進呈

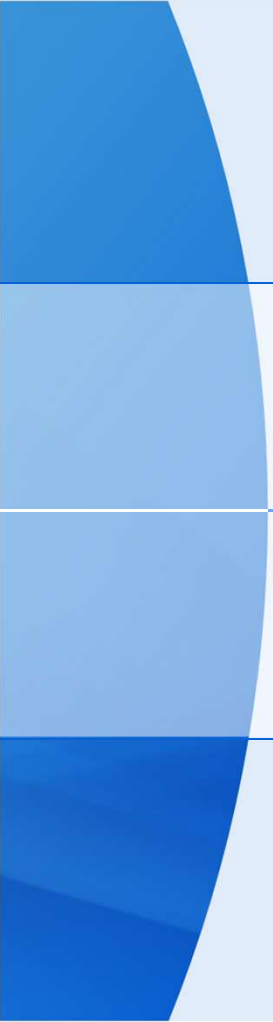
2026年3月期予想

1株あたり配当金

52円

1株あたり配当金とDOE推移





04 APPENDIX

これらの取り組みを基盤に、次の100年を見据えた持続可能な成長を目指す

— E（環境）



- お客様との連携により、自社製品の回収を実施し、再びパルプモールドとして再生利用
- 工場への太陽光発電導入促進

— S（社会）



- パルプモールド移動式リサイクル工場「アルエコ」を用いた体験型教育の提供
- Jリーグ各クラブとのオフィシャルパートナー契約を締結
- 働きやすい職場環境の整備

— G（ガバナンス）



- 企業価値の継続的な向上を図るため、変化に迅速に対応できる組織体制と、透明性・公正性の高い経営体制を構築・維持改善
- IR説明会の定期的な実施

具体的な実施内容、KPIに対する進捗状況はHPIにて掲載

<https://www.osk.co.jp/sustainability/>

未来を包む - Inclusion for Future -



大石産業株式会社

本資料についてのお問合せ先

大石産業株式会社 経営企画室 IR担当

本資料の将来に関わる一切の記述内容は、現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断によるものですが、
現状または将来のリスクや不確実な要素が含まれています。

また、実際の業績は経済情勢の変化、法的規制の変化、自然災害等により変動する可能性があります。